

NPBとBCリーグ選手の セカンドキャリアサポート

桜美林大学澤井和彦研究室A

○大森雄貴 伊東悟 水谷文哉

谷戸沙耶佳 田村智子

目次

▪ 諸言

▪ 目的

▪ 方法

▪ 結果

▪ 施策提言

▪ 参考文献

諸言①

- 1軍プロ野球選手の最高年俸: 4~5億円
- 1軍プロ野球選手の最低年俸: 1,500万円
- 2軍プロ野球選手の最低年俸: 440万円
- 育成選手: 240万円

- 引退の平均年齢: 30歳前後

- 高校卒業後にプロ野球に入団する選手の3割が一軍への出場経験のないまま引退し、一軍在籍経験のない選手の平均在籍年数は4.02年(黒田、2004)
 - 黒田次郎ほか「日本プロ野球のドラフト制度に関する研究(1)」運動とスポーツの科学、Vol10(1)、2004、pp27-36

諸言②

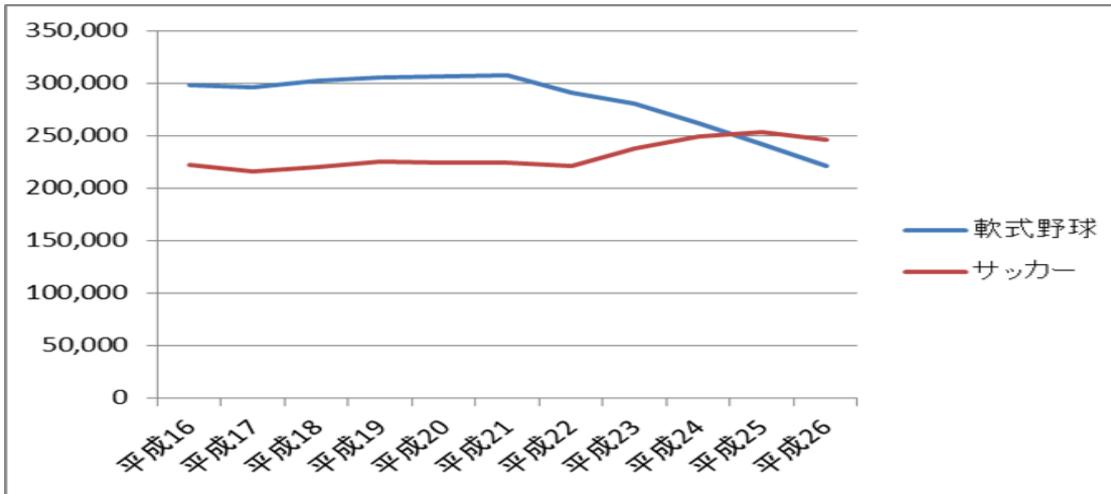


図1 中学部員数

子供の野球人口が減っている



魅力あるリーグにするには
セカンドキャリアのサポートが必要

目的

独立リーグはNPBに行けなかった選手の受皿の一つとして存在し、NPB昇格を目標として活動している(独立→NPBは28人)。

しかし、独立リーグのキャリアの現状は不透明。

そこで、独立リーグのキャリアの現状を明らかにしつつ、NPBのセカンドキャリアのサポートについても検討・施策の提案を行う。

方法

① NPB・BCリーグ選手の年齢、最終学歴などのプロフィール調査

- 出典:BCリーグ公式ホームページ

② セカンドキャリアの実態、サポートの調査

対象クラブ:富山サンダーバーズ・新潟アルビレックス
福井ミラクルエレファント・福島ホープス

- 調査方法:メールによる質問紙調査
- 調査項目:選手のセカンドキャリアの実態

③BCリーグ球団キャリア支援企業調査

- 対象:(株)建通エンジニアリング・(株)白寿
- 調査方法:メールによる質問紙調査、訪問による調査
- 調査項目:セカンドキャリアサポートの実態

④デュアルキャリア調査

→有識者へのインタビュー

調査結果①

選手の年齢構成

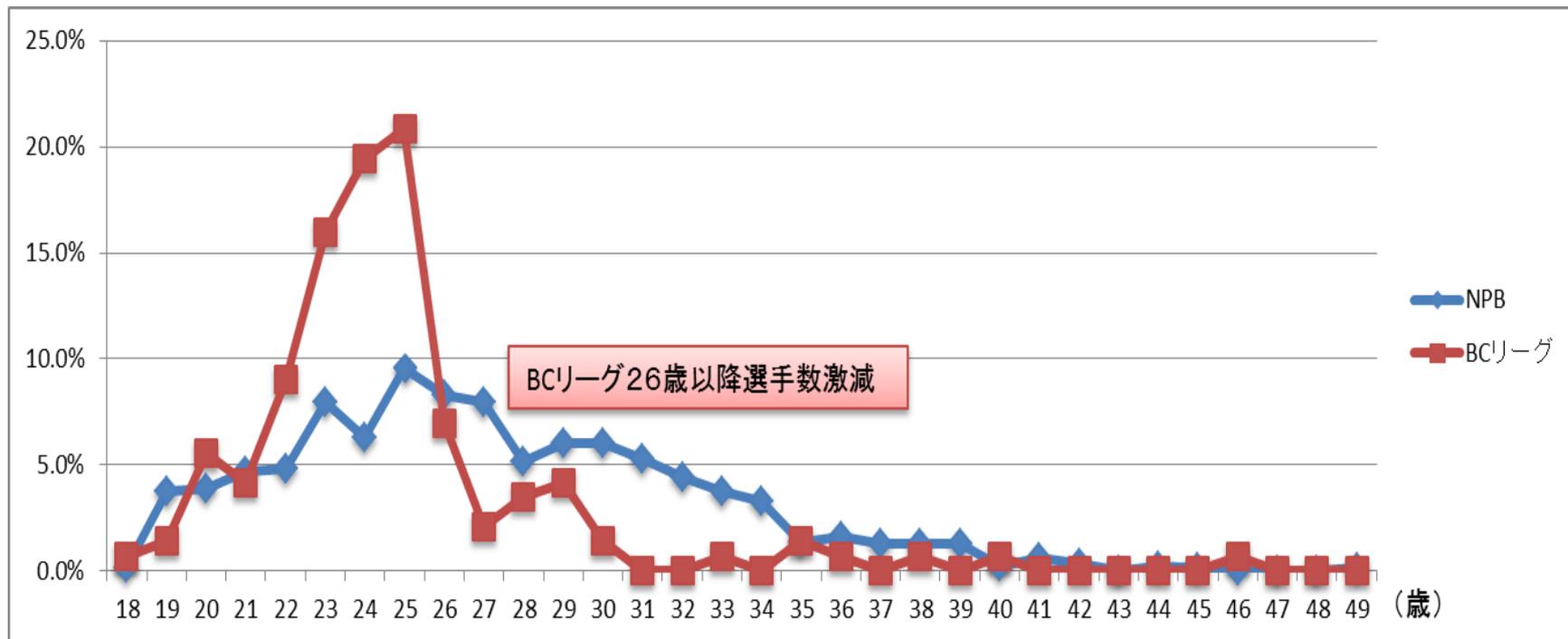


図2 NPB・BCリーグの年齢分布(%)

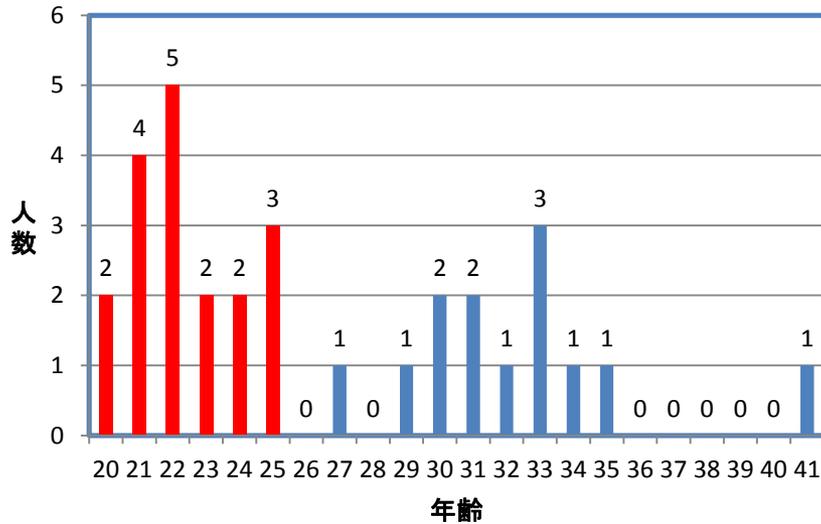
- NPB平均年齢: 27.3歳
- BCリーグ平均年齢: 24.2歳

調査結果②

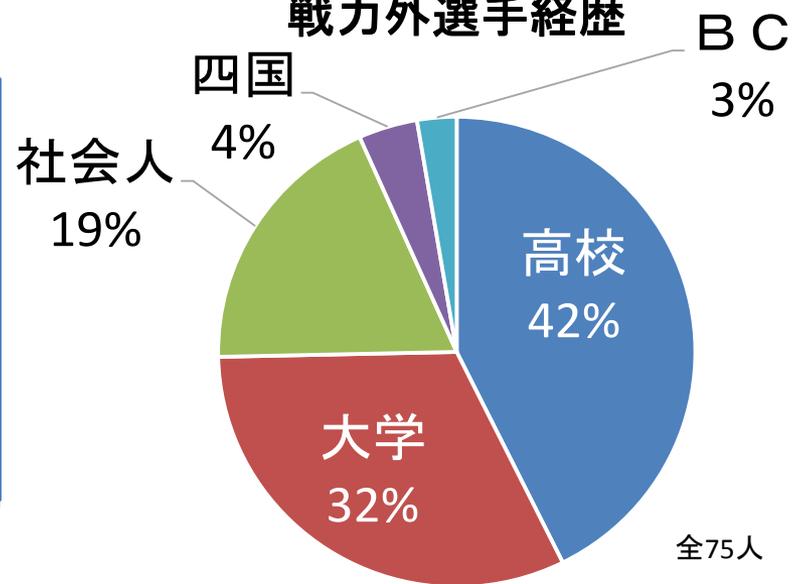
NPB選手の入団前年齢・最終経歴

戦力外選手年齢分布

全75人



戦力外選手経歴



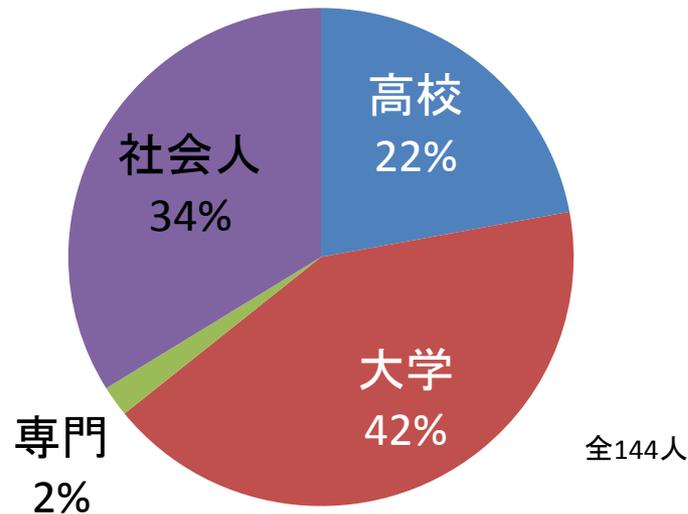
- ・若い選手の人数が多く、高卒が大卒を上回っている
- ・高卒選手は早い段階で能力を見極められてしまう



20代前半の高卒選手のキャリアサポートが必要！

調査結果③

BCリーグ選手の入団前最終経歴



- ・NPBとは異なり、**大卒**が高卒を上回っている
- ・高卒選手のうち41%がNPBを経験→**高卒で入団する選手は少ない**
- ・年齢は26歳以降激減→**26歳**がNPBを目指す限度



26歳までに引退する特に大卒選手のキャリアサポートが必要！

BC球団インタビュー調査結果④

BCリーグ選手の待遇

- ・給与支給：4/15～9/15のシーズン期間のみ
- ・報酬：サラリーキャップがあり、選手1人年間240万円（月収15万円程度）

BC球団インタビュー結果⑤

球団のキャリア支援

<福井ミラクルエレファンツ>

- 地元企業の軟式野球部に退団選手を送出
- 野球、人格が優れている選手を毎年1,2名就職
- 球団支援団体「福井を元気にする会」
 - 地元企業17社で構成し、オフシーズンの選手をアルバイトで雇用

<福島ホープス>

福島の企業は深刻な人材不足に悩んでいる

→求める人材とは.....

- 挨拶がしっかりできる、上下関係が理解できる、元気で体力のある人材など、企業の人材需要に一致しており、スポンサーする理由になっている

協賛企業インタビュー調査結果⑥

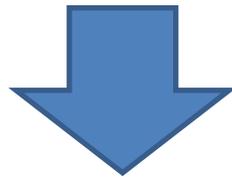
- 新卒採用は大学野球部中心
- BCリーグ選手に対し支援を実施
 - キャリアコンサル
 - ビジネス研修
 - 職業紹介
 - 紹介後の就業サポート
 - オフシーズンのアルバイト先を紹介

協賛企業インタビュー調査結果⑦ (株)白寿：田口竜二氏(元NPB)

・指導者の問題

→考える子供たちを育成、環境づくり

小さいころから野球だけじゃないと考えさせることが必要。思考のクセをつける指導をすることにより高校、大学、プロと進んだ時に野球だけでなく他のことにも目を向けることができる。



指導者の意識改革を行う必要がある。

協賛企業インタビュー調査結果⑧

(株)白寿：田口竜二氏(元NPB)

セカンドキャリアで成功するために

・マインドセット

→野球に関してのセカンドキャリアは無くし、全く別のものに変換し、切り替えられるかが重要

また、野球に代わるもの(目標など)を見つけ、それに向けて行動していくことが必要。

専門家インタビュー調査結果⑨

デュアルキャリアについて

- 教育とスポーツを同じ場所で効率よく両立させ将来に備えようとする概念
- 学校スポーツや企業スポーツなど日本はすでにデュアルキャリアの環境が整っているが、**選手の意識**がデュアルキャリアに対応できていない

結果考察

- NPBは高卒、BCリーグは大卒が多い。
- BCリーグは支援を行っている。
→デュアルキャリアシステムがある。
- 地元企業との提携があり、BCリーグの人材を求めている。



この結果より以下の政策が考えられる。

施策提言

◎BCリーグ

- ・群馬ダイヤモンドペガサスは23人中12人を地元出身者で構成
- ・セカンドキャリアの取り組みについて、認知度を高める
地域と連携したキャリア支援システムの構築

◎NPB

- ・野球に代わるもの(目標など)を見つける
 - ・指導者自身も勝利至上主義の考えをなくす
 - ・若手戦力外選手に対して独立リーグと連携しデュアルキャリアシステムを構築する
- 若手高卒引退選手のキャリアサポート・意識改革

BCリーグ

～地域と連携したキャリア支援システムの構築～

- ・キャリア支援を地域の若者の就職支援策と一体化
→地元企業の補助金制度を設ける

NPB

～若手高卒引退選手のキャリアサポート～

- ・OBによる若手選手の意識改革
→野球以外の目標を考えることでセカンドキャリアを充実させる
- ・練習補助員その他、独立リーグへと輩出する

参考文献

- 黒田次郎ほか「日本プロ野球のドラフト制度に関する研究(1)」運動とスポーツの科学、Vol10(1)、2004、pp27-36
- プロ野球選手会公式ホームページ
- BCリーグ[ベースボール・チャレンジ・リーグ]公式ホームページ
- 日本プロ野球機構オフィシャルサイト

ご清聴ありがとうございました